

今年も楽しい音楽発表会。先生も「羞恥心」の歌と踊りで盛り上げ

吉川小学校文化祭

吉川小学校の文化祭が19日行われました。音楽発表会に出て、絵画の展示も見させてもらいました。どちらも見ていて楽しく、子どもたちの成長を確認できてとても良かったです。また、学校での出来事を知ることができて勉強になりました。

小学校の生活科の学習で動物を飼うところがあります。吉川小学校でもヤギを飼い始めました。近いうちに豚もくるそうです。ヤギが来た時の感動を絵に描いた子どもがいました。ヤギの背中に3人で登って楽しそうにしています。よほど、うれしかったのでしょね。朝顔を育てて90個の花を咲かせた1年生たち



は、音楽発表会で「手をたたきましよう」を歌いました。

この夏、評判になった映画、「崖の上のポニョ」。2年生と器楽クラブがこの映画のテーマソングを発表曲に採用しました。2年生がポニョのお面をかぶり、楽しそうに歌う姿を見て、この映画が子どもたちに受け入れられたことが理解できました。2年生の歌と合奏では、竹で作った楽器が効果的な音を出しているのが印象に残りました。

毎年感じるのですが、絵も音楽発表も1学年から6学年まで、それぞれの学年の持ち味があり、どんどん成長していく様子がわかります。歌だけでなく、手拍子をとりに入る。部分二部合唱をやる。完全な二部合唱にする。6年生の合奏「ラバーズコンチェルト」、二部合唱「つばさをだいて」にな

ると力強さもあって、貫録十分でした。

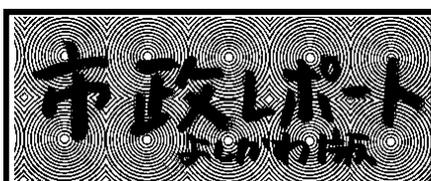
音楽発表会でみんなが楽しんでいっているのは恒例となつた職員発表です。プログラムでは曲名も発表されておらず、何をやるのかみんな興味津々でした。教職員全員で「上を向いて歩こう」を歌っていったん引き揚げます。しかし、会場からは「吉川小学校はこれだけでは終わらないよ」という声飛びます。まもなく、紙で作った鼻ヒゲをつけ教頭先生が登場。「きょうは3のつく数字と3の倍数でバカになります」と言って、数字を言うごとに顔の表情を変え、会場は爆笑の渦に。そこへ、今度は校長先生が登場し、「君は何をバカなことをやっているんだ。羞恥心はないのか(たぶん、こんな意味だったと思います)」と言って連れ戻す。そして登壇したのは若い3人の先生による、「羞恥心」の歌と踊り(下の写真でした。会場からは拍手が出て、もう最高潮でした。グループ名も歌も、私は初めて知りましたが、大流行した歌だったのでですね。ああ、はずかしい。



【サラシナショウマ】土手からにゅーと出て咲いています。大きな花の穂が特徴です。キンポウゲ科。

31日に杜氏の郷問題などで文教委

吉川区地域協議会は15日、上越市長、市議会などに(株)杜氏の郷の存続要望書を提出しました。こうした動きの中、市議会文教経済常任委員会が31日午前10時から開かれます。傍聴できますので、希望される方はご連絡を。



NO 1368
2008.10.26

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一
TEL 548-3628 (有線) 4867
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www.hose1.jp/

春よ来い 第一〇〇回 赤とんぼ

今年の秋はいつもと違う、このごろ、そんな気がします。ミンミンゼミが一〇月半ばころになっても鳴いていたり、季節はずれのスイレンが咲いている。それもありますが、何よりも赤とんぼが少ないのが気になります。

私が尾神岳のふもとで住んでいた時も、現在の代石というところに移り住んでからも、毎年秋になれば、たくさん赤とんぼの姿を見られました。田んぼでワラ集めをしている時、無数の赤とんぼがトラクターの周りを飛び回る。水たまりに腹部の先端を打ちつける。空中でオスとメスが連結（合体）したまま飛ぶ。そうしたとんぼたちの様子は秋のごく普通の風物詩だと受けとめてきました。

それがどうでしょう、今年は、晴れた日の夕方であっても、赤とんぼは指で数えることができるほど少ないのです。

この秋、赤とんぼの大群と出合えるかと何度も足を運んだ場所がいくつかあります。ひとつはわが家の牛舎の堆肥舎付近です。そこは、無数の赤とんぼが夕日に照らされてキラキラと飛んでいたことがしつかりと記憶に残っている場所のひとつです。堆肥を運び出す作業をしている時に、赤とんぼたちはトラクターの周りを飛び交い、トラクターのボディや排気筒の先端、そして私の体にもとまったものです。付近の建物のトタン屋根、それから建物と木の間に張ってあったロープにもとんぼたちが行儀よく並んでとまっています。ところが、今年はいっ行っても数匹の赤とんぼがいるだけです。空いっぱいには広がり飛んでいたとんぼたちは一体どこへ行ってしまったのでしょうか。

吉川の下流域にある代石の田んぼも赤とんぼがたくさんいた場所として忘れることができせん。ここは、二〇年ほど前、赤とんぼたちが次々と産卵する光景を見た感動の場所です。真赤なアキアカネの大群がやってきて、雨ががりの田んぼの水たまりで腹部を打ちつけては飛び立つ。幾組もの連結した赤とんぼがこれを繰り返していました。赤とんぼといっても、胴体部分が必ず赤くなるとはかぎりません。ほとんどは茶系統の色をしています。ですから、真赤なとんぼの大群を見るだけでも見事な光景だなと思っています。それが産卵もしていたのです。印象は強烈でした。残念ながら、これも今年、ほんの数匹しか飛んでいませんでした。

こう書くと、昔から赤とんぼの飛び交う様子をゆっくりと観察していたのではないかと思われるかも知れません。でも、これまでなかなかさういう時間はありませんでした。赤とんぼの羽は四枚であり、足は六本ついている、大きな眼は複眼で、羽をつかんで人間の顔を近づけるとぐるりと回すことがある、といったことなどは昔も見たことがあるのでしようが、最近になって、なるほどと思いつつながら確認しています。

赤とんぼは、とんぼとしての生活の中で私たち人間と出合います。人間と出合うために飛んでいるわけではないと思いますが、空が赤く染まるころ、空を無数の赤とんぼたちが飛び交い、人間の周りにもやってくる、その様子は、私たちの暮らしの中で当たり前のものとして定着しています。

子どものころ、夕陽を浴びてとんぼたちが空を舞う姿はいいものでした。大人だつて同じです。どんなに忙しくても、たくさん赤とんぼの姿を見ると気持ちがあふわつと温かくなります。何となく幸せな気分になります。赤とんぼが少なくなったのがたまたまであつて、地球温暖化の影響でなければいいのですが。

によると、花粉症の人にはこの大葉がよいそうです。農産物の安全性がいまほど求められている時はありませんので、無農薬栽培にこだわっての生産は評価できるものです。ただ、既存の地域農業との連携、地域農業を盛りたてていく姿勢があまり見えなかったのは残念なことでした。

もうひとつ、(有)妙高ファームは地元でとれるトマトなどの農産物を直売しているところです。直売所は国道沿いにあり、年間1億円からの売上を記録しています。生産履歴を重視し、地場産の農産物を売り、地域振興につなげようと一生懸命です。直売所で説明を受けた後、大洞原の開拓地を視察してきました。ここは私の昔の牛飼仲間もいるところですが、何軒もの農家が白菜、ネギ、トマトなどを自分の作業所などで直売して頑張っているのは驚きでした。

懐かしい道具がいっぱい

吉川コミュニティプラザ3階大会議室で「トウミ」「スキ」など、農作業で大活躍した道具が展示されています。出かけてみませんか。展示は来月3日まで。入場無料。



妙高市での農業視察に参加して 「ホーセの見てある記」10月24日付より



きょうは市議会食糧農業農村議員連盟の視察でした。視察先は妙高市です。すぐ隣の市ではありますが、農業に関する興味深い取り

組みをされているので大きな関心を持って参加してきました。

視察先のひとつは(株)妙高ガーデンです。株式会社の農業参入第1号として有名ですが、何をどのように生産しているかは今回の視察までまったく知りませんでした。同社は、無農薬で大葉やハーブなどを大規模施設で生産していました。100人を超える人が雇用されていて、1棟1億円もするというハウスはまるで工場のような感じでした。ハウス内は大葉の匂いが漂っていて、とても気持ちよく感じられました。説明された人